

医療と教育の連携を目指して

去る11月8日、佐世保市の陣内教育長を囲んで、教育・福祉・医療・療育の関係者と保護者の代表が集まり、座談会形式で懇談を行いました。その様子を、11月15日付の長崎新聞に取りあげていただきました。

私は医療代表で参加し、データをもとに発達障害や不登校の子どもたちの窮状をお伝えしました。また、不登校の子どもが34万人と激増、子どもの自殺者数が3年連続500人越え、子供の幸せ度がOECD加盟38カ国中37位、などの現状は「子どもたちの緊急非常事態」であり、直ちに何らかの対応が必要との考えを述べました。このような現状を少しでも打開するために私が行っている、中学での「ケース検討会議」の取り組みをご紹介し、他の学校にも広げていただきたいと要望しました。また、文科省が試験的に始めている「子どもの心の学校健診」の導入を佐世保市でも検討いただけるよう、提案しました。

子どもたちを取りまく環境を見ていると、どの分野も深刻な人材不足で、子どもたちへのサポートは本当に行き詰っています。しかし、そんな中でも多職種がお互いに連携し、知恵を出し合っていくことで、少しずつではありますが環境は変わっていきます。子どもたちが幸せを感じられる社会を目指し、着実に歩みを進めていきたいと考えています。

